

WS 高等学校の「哲学・倫理」教育で何をどのように教えるか
「哲学研究と高校「倫理」教育の連携へ向けて」
木阪貴行(国士舘大学)

連携教材例

徳福不一致に対する思想的応答（理性の限界と宗教的問題）

→ 正しい仕方で宗教を受容するとはどういうことか
幸福に値する、というカント的、理性的な考え方とその限界(?)

①西洋思想

○ギリシャ哲学をこの不一致に対する戦いとしてみるができる

幸福ー善のアリストテレスによる分類 → 内的 魂 徳
→ 外的 身体
→ どちらでもない(所有物、名声名誉等)

内的善の優位によって、徳=十分に幸福、というラインを維持しようとする

○ソクラテスの場合：徳は知だが、フィロソフィアとは知への愛、まだ徳は有していない

知の吟味という使命の放棄は悪→悪の回避としての死 不幸ではない

○ストア派 アパテイアという幸福を追求する
内的に思うようにならない外的善をすべて切り捨てる
だがこれは、肉親への情愛等も切り捨てるといった非人間的な傾きがある

○アリストテレス自身 外的善の必要性を否定できず 幸福は運に依存

-----↓

○キリスト教思想が別の種類の解決をもたらす
アウグスティヌス 救済史への組み込み

②インド思想 そもそも徳福の不一致ということが深刻な問題とならない、なぜか

○業(カルマ):それにふさわしい結果を生み出すまで影響がずっと存続するものとしての行為

善い行いは幸福な経験を必ずいずれもたらし、悪い行いは苦しい経験を必ずいずれもたらす

しかも、輪廻という無限の継起の中でこの連鎖が続く

現在の幸・不幸はこの連鎖の中で生じる

○行為は欲望により生ずる限り、必ず苦をもたらす → 一切皆苦の世界観

○解脱という理想 行為は業である限り、それから抜け出すことは、行為によることはできない。

→ 無明という無知から脱出する知

- 業と輪廻という考え方では、不幸ということに外的な原因がそもそも存在せずすべては内的原因による
- 無明である限り苦しみは必然であり、
幸福であるべき、あるいはそれに値するべき徳という観念が未発達
- 苦から抜け出ることを可能にするのは、解脱
- 解脱を可能にするものはある種の知であり、ものの見方の転換である。
それは、実践的善悪とは必ずしも関係しない。

③中国思想 「天」の人格性と「命」との関係の相克から三世説による不幸の説明へ

- 連続する神と世界、自然

超越的世界認めず世界はこの天下だけ 死後の世界は考えない

『詩経』『書経』に見られる「天」の人格的性質

- 孔子の場合

人為を超える「命」の存在→「天」の人格的性質が弱まる

伯夷・叔齊に関する子貢との問答

仁の実現、道徳の完成に自足し、怨むことはない

幸福の変容

- 墨子の場合

「兼愛交利」が「鬼神」により人格的「天」による福録を得る

「天」の人格的意志の強調と「命」の否定

- 司馬遷の問一天道是邪非邪(『史記』)

「天」を信じられない → 歴史を信じ「名」を残す

- 王充の場合 「天道」を「自然」と捉えて天の人格性を否定 → 運命論

- 列子の場合 名の否定と生の謳歌

貴族による欲望追求と政治の乱れ → 異民族による占領

-----↓

- 宗教導入によってある種の解決を見る

仏教の輪廻説を受容

だが、解脱との連関ではなく、三世説という不幸を説明するシステムとして受け入れられていく。

以下、2009年12月～2010年1月実施のアンケートにおける意見から

○そもそも教育を数値化したり、短期評価することが無意味。例えば「倫理」が入試科目化される弊害は計り知れない。マークシートには1番なじまない。問いをたてる学問なのに1つの正解を求める矛盾。倫理感などという使われ方が道徳的解答を求めているかのように思われて仕方がない。そこから結局、世界史の補足的な哲学史・人物史・思想史の事実認識を問うだけといった薄っぺらな設問中心となる。授業で常に意識しているのは、模範解答のない人生に対処していくための実学として＝倫理で「考えさせること」。高校生の身近な事例と関連させて、お説教ではない、難しい理屈で

もない、「生きるとは?」「存在とは?」「どうやって価値を実現していくか?」「私たちは世界をどう見ているか?」「言葉とは?」などの根本命題に触れさせることです。具体的手法としては、テレビのニュースバラエティ・ドキュメント・ドラマ、映画、小説、漫画、アニメ、新聞記事・ニュース、雑誌記事、ネット記事・動画など、あらゆるものを教材化し提示しています。それに関連させて教科書の精神分析や心理学、哲学思想などを紹介します。テストは知識を問うよりも、問題が何かを考えさせる・自分の意見を書く等、記述を重視しています。

○生徒が身近に感じられるような授業内容に心がけています。

○漢字を読めない生徒が多く、教科書にでてくる社会的な用語を読めることを目標の一つとしている。

○倫理では出来るだけ西洋哲学史・東洋哲学史になるよう心がけて授業をしている。愛や友情について個別に考えるのではなく、そのような観念が可能かどうか古代ギリシャから順を追って紹介している。また哲学の課程で生まれてきた思考法も紹介し、時間を見つけて演習や思考実験を行わせている。倫理以外に知識や常識を生徒が批判的に検討できる科目は少ない。特に古代思想は重要で、我々現代人が持つ観念が必ずしも普遍的ではないことを教えてくれる。学校教育法によれば高校教育は健全な批判力を持つ社会人の育成を目的のひとつとするから、高校倫理を通して先哲の思索に学び生徒が現代的な思い込みから精神を開放出来るよう促さなければならないと考えている。また数学を実用的な計算法であるかのように思い込んで学んでいる生徒が多いため、観念の操作法・思考法を紹介するのは倫理科目が中心になる。数学との連携がうまくいけば、倫理科目の可能性は更に大きくなるだろう。

○・「命」や「死」、そして「老いること」や「人間関係の困難さ」など、「倫理」科が生徒に与える示唆には大きなものがあるのに、「倫理」科を開講できない現状を打破できない。

○1. 授業を組み立てるにあたって、具体的な問題から出発し、それを語るための基本的用語を理解させ、ふたたび現実の問題を考えることを大事にしている。2. 社会科公民科の課題は、事物の背後にある他者の存在に生徒の眼を向けさせることである。こうすれば、「現代社会」「倫理」「政治経済」という枠組みを貫いている公民科教育の基本視点を設定できるのではないか。3. 従来の教科枠組みを大胆に見直す時期に来ているが、社会科教育の学会ではそうした視点が弱い。現場はすでにそのことに取り組んでいるが、その意義をつかみ損ねているとおもう。4. 「倫理」や「現代社会」の授業は、価値に関わる議論を中心に据えなくてはならない。そうする場合、評価ということよりも解釈する(しあう)という学習活動が重要である。しかし、いわゆる評価研究は、解釈と評価を混同しているとおもわれる。

○倫理教科書について「あまり満足できない」にチェックを入れましたが、教科書に問題があるのではなく、それを教える教師側に問題があるように思います。具体的には教科書の内容を「きちんと」理解して教えている教師または教えることのできる教師はほとんどいないと思えるからです。お恥ずかしい話ですが、私自身もその一人です。よって、「現代社会」の倫理的分野もさっと流すように終わっているのが現状です。私どもの努力不足と言われれば、それまでですが、なかなかそれができない現状

が学校の中には存在しているのも事実です。島根大学の先生が「教科書に出てくるような思想家たちの思想と現代の思想とを結びつけられるような教材をつくりたい」と言っておられたのですが、そのようなものがあると学校現場もやりやすいのではないかと思います。勝手なことばかり書いて、申し訳ありません。

○来年度からの新しい指導要領では「道徳教育の充実」が求められ、とくに「現代社会や倫理」でしっかり取り組むことが求められている。が、「世界史未履修」と同じ轍を踏むような気がしてならない。もとが旧自民党政権による「教育基本法改正」をもとにした指導要領改正なので、どこまで続くかわからないが。

○・個人的には旧「社会」免許を持っている中で唯一担当したことのないのが「倫理」です、すいません。他の先生が担当しています。やはり漠然として教えるにくい科目というイメージは根強くあり、避けてきました。・やりようによっては生徒に考えさせる部分を多くできるのかもしれませんが、反面、学校の実情・生徒の現状に左右されると思います。困難校においては、とにかく教科書の内容に一応触れた、というだけでよしとすべきでしょう。

○必修かつ単位数の観点から現社を採用しているが、医療関係に進む生徒もいるため、倫理をしっかり学んで欲しいという強い願いの基で、3年次の選択科目に倫理及び政治経済を採用し、より深い理解力と判断力を身につけさせようと考えています。授業の工夫によっては2単位の現社でできるのかもしれませんが、本校では大学につながる、そして実社会で起こるさまざまな事象に対応し、考えて行動できる人間を育てたいということで受験科目も倫理か政治経済を選ぶよう指導しています。

○自己の在り方、生き方を考察すること、意見交換して他者と触れ合うこと

○授業で重視していること教科書に沿った授業を行っているが、いかに日々のニュースを資料・説明例として用いるかが生徒の興味・理解を深めていくために必要不可欠である。授業の導入がうまくいくと、生徒を引きつけることが出来るのが公民科目を教える側の醍醐味である。

○本校は工業高校ですので、推薦以外の大学受験生そのものが稀です。授業では、社会人として生きるための具体的な事例を挙げて、伝えることを大切にしています。

○社会科（高校では地歴科・公民科、本校では地歴公民科として教科編成。）は一般に主要5教科とはいえ、他の4科からすれば、「暗記科目的な存在、自学学習でなんとかなる。」の考えをもつ教員もあり、教科として、その考え方の根本から変えるべく、独自の授業展開・シラバスの作成を行っている。しかし、言うは易く、行うは難しで、これからも実践を積み重ね社会科担当の一員として研鑽に努めていきたい。

○本校はいわゆる「進学校」ではありません。学習に対する動機づけが弱い生徒たちに「倫理」を教えることが必要かどうか、4月当初から疑問に思ってきました。しかし、知的な探求の面白さ、社会や自己を深く見つめる点など、他の教科にはない魅力があるとも考えるようになってきました。「現代社会」の授業を創意工夫し、教科書を通り一遍に教えるのではなく、社会に対する関心・疑問を高める授業が実践できるのであれば、「倫理」をせずに「現代社会」でもいいようにも思いますが、「チョーク&トーク」といった従来型の授業展開でいくのであれば、「倫理」を教えることも生徒の刺激になるように思っています。ただし、定期テストが用語の暗記確認に陥って

しまっており、反省しきりです。

○授業がある週のニュースを取り上げたり、新聞の記事を要約して話をしたりして、生徒の興味・関心を引き出している。調べ学習を取り入れる。

○私は倫理の授業における人間の内面にふみいった授業が好きですので、現代社会でも人間教育として、さまざまな思想家の考え方に触れた授業を行っています。今後、本校でも倫理の授業が取り入れられるそうなので、より一層深めた授業展開をしたいと考えています。しかし、専攻は社会科学（法学）ですので、満足のいく教養がありません。ですので、夏期・冬期などでの研修会があればぜひ参加したいと考えています。そのような研修がありましたら教えていただきたいです。よろしく願います。

○『授業内容が自分たちの生活に大きく関わっている』ということが意識できるように授業を行っている。

○本校のような1学年1学級の小規模校において、政経+倫理の4単位での授業は難しい。加えて、地歴・公民科1人で、全ての科目を実施しなければならない。このため、現代社会2単位になってしまう側面もある。教員の定員については、各校の実態に応じているため仕方のない面もあるが、社会科としてではなく、地歴科・公民科として職員を分けていただけると、倫理の授業も実施可能と思われる。

○来年度まで、3年生全員に現代社会を必修で履修させるカリキュラムであるが、22年度センター試験の公民科目の変更により、文系の生徒には倫理・政経を履修する形に変更する予定である。大学受験との関連で学校教育現場が掻き回されることに不満を感じている。

○本校の形態が中間定時制ということで、いかにわかりやすく現代の諸問題・社会の流れを教えていくかが問題となっている。そのため、進学する生徒も限られており現代社会を受験のため使用することがないので、高校の学習指導要領に沿った授業を展開している。公民力とは、社会に出てからも必要であり人間形成力を養うためにも最も大事な教科の一つであると認識している。それと同時に強い使命感を持って授業を展開することを心がけている。これかも将来を担う高校生たちの公民力を養ってあげればと感じております。

----- 以下略

○現在の高校1年生文系が受験するセンター試験では、政経・倫理（50点ずつの100点満点）が課せられるので、ますます限られた時間数で授業が行われることになりま。よって、いわゆる「進学校」では、ますます表面的で付け焼き刃的な学習になってしまうのではないかと心配です。

○先人の思想を手がかりとして生徒自らに考えさせ、文章なり口頭なりで表現させることが大切だと思います。

○受験対応と生徒の興味関心・高等学校の生徒に学ばせるべき社会科学の内容を如何に満足させるかという辺りが大切だと、日々考えています。

授業においては、夏休みを利用しての自由研究（各自興味のある2冊の文献調べ）と、それにもとづく夏休み明けのプレゼンテーションを必ず実施しています。

○新学習指導要領では、道徳観？（倫理的価値？）的な側面を強く打ち出すようにと

いう感じになっているが、現場の教員がどの程度、そのことを理解し、授業を行っていくかが問題であろう。そんな中、現代社会において「幸福・公正・正義」という視点での授業は、今後の公民科教育に大きな影響を与えるかもしれない。自分は主体的な学びに重点を置いて授業を実施しているが、政経においても倫理においても、講義式、知識注入型の授業形式では、今後は難しい科目であると感じている。

○重要視していること・大学受験科目として一定の成績が取れるようにすること。

○倫理分野の授業に際しては、教員自身が原典を読む経験が必要だと思い、授業で取り上げる思想家については最低でも1冊以上は読んだ上で授業内容を構成するように努力しています。私の経験は限られたものではあります。哲学史の流れを踏まえて授業を構成していったほうが生徒の理解が深まりやすい気がします。他の分野にも共通していえることですが、教科書の記述は平易さを意識するあまりか内容が薄すぎ、逆に授業に生徒が関心を持続させることが難しい気がします。また、2単位の割には扱うテーマが多すぎ、教科書に沿った授業をやると生徒の理解は表層的なものにしかならず、すぐに忘れられ定着もしません。将来の主権者として必要な資質を養うことができるよう、何を教えるべきなのかを検討するとともに、2単位という制限の中で基礎学力の欠けている生徒にどのように効果的に教えていくのかも模索する毎日です。

○生徒には、現状に対する批判意識を持ってほしいと思っている。従順な公民を作る、ということではなく、主権者としての自覚を持ち、自分の人権を脅かすもの・自分たちの生きる世界を悪くするモノや行為にNOといえる力をつけたい。↑というのが理想なんです。現実はまだ出来ていません。そういう意識を持って、ニュースなどの事例を挙げたり、新聞記事を読んで考えさせたり・・・を時々しています。

○生徒の実態に応じて、哲学的な抽象概念の分野には触れずに、青年期と宗教、ルネサンス・宗教改革、生命倫理などを中心に教えています。また、定期試験では新聞の投書に対して、300字程度の意見を書く問題を出題。

○できるだけ、現実の問題（時事問題）と絡めながらの授業がよいと考えているが、実際は、授業研究・授業準備の時間が完全に不足しており、思うようにすすめられていない。特に公民科「現代社会」の思想史部分や「倫理」は、高校生にしっかりと考えさせたいと思う分野だが、時間的ゆとりがまったくなく一方通行の授業になってしまっているのが現実である。重要視したいと考えるのは、思想史・生命倫理・環境倫理分野であるが、うまく授業展開ができていないのが現実である。

○「授業において大切だと考えることが何か」ということを考慮できない、あるいは考慮しても実際の授業に生かす機会が見いだせずにいる、というのが現状である。要因は、大学入試重視、成果主義（いかに各教員が担当生徒の偏差値を上げるか）などが挙げられる。生徒も余裕はなく、生徒への授業アンケート（これも成果主義の一部であるが）においても、自分の成績があがった先生の授業が良い授業であるとの評価が多い。もちろん自分が伝えたいことを伝えつつ、成果もあげようと工夫はしているが、何ともさみしい限りです。

○「公民」における様々な内容は、現代に生きる私たち一人一人の人生や生活そのものであり、一つ一つのテーマに関して討論し、疑問点を考察し、自らの血や肉になら

なければ意味のない教科であるにもかかわらず、センター試験を目標に、知識の詰め込み、演習の繰り返しになっているのが現状です。現実の様々な事象を取り上げながら授業を行います、調査・討論・考察などを行う時間的余裕はなく、それだけでなく社会との接点の薄い生徒たちにどれくらい現実の社会との接点を持たせられているのか、はなはだ疑問です。限られた時間の中で、進学指導に力を入れながらも、内容の充実を図っていくための試行錯誤の毎日です。稚拙な感想ではありますが、お役に立てれば幸いです。

○政治経済を専攻としていて、本年度初めて倫理を担当している者です。心理・哲学の分野だけでも自分の知識不足と授業のつたなさを感じながら、新たな知識の発見や授業スタイルの工夫を考えることに楽しみを感じることも多々です。以下、項目9について回答・道徳科目ではないことをまず確認している。・倫理という教科の幅広さ、人の知識の幅広さを感じられるようにしたい。・そのため、青年期・源流思想・宗教・日本の思想を1年間の範囲としながら、近代・現代思想や、現代社会分野の諸問題を、可能な限り随時関連付けられるようにしたいと思う（ただし、時間が足りず現状は不十分であると感じている）。・レポートの書き方から指導をはじめ、レポート課題を数回行っている。自分の意見をまとめる力を養うのに、倫理という教科は取り組みやすいと考える。ただし、受講人数が多いため、負担が大きくなり、頻繁には実施できないことが残念。・時事問題を導入に利用すると、生徒の関心も高くなる。・漫画を教材に利用することもあるが、最も生徒の関心が高まる。・本校では、現カリキュラム上は「政治経済」分野をセンター試験では重視している。また、多くの生徒は私立文系型の受験を選択する。そのため、1年次必修の倫理・地理において、政治経済・日本史・世界史分野に知識がつながるよう、意識をしている。実際に日本史・世界史の資料集からプリントを作り、授業を行うこともある。・とはいえ、全ての目標を達成するには2単位ものの時間制限は大きい。地理・政治経済・日本史・世界史担当と常に進度確認と関連付けの確認を行うよう努めている。

○今後は、現代社会や政経倫理の枠にとらわれず、現代事象について学び研究する「新たな科目」を設定することも考える時期にきているのではないのでしょうか。

○いのちや人権などいじめや同和問題をとおして考える。

○現在現代社会の授業で課題追究プログラムやディベート学習を実施しているが、「センター試験に直結する、点数の取れる指導をすべき」という批判に常にさらされている。今後も言語活動を重視した授業を展開すべきであると考えているが、減単位（3から2）ということもあって継続が難しい状態である。

○センター試験の指定科目において、2012年度から、公民で倫理・政経4単位を指定する国公立大学が多いようである。現場では公民で4単位確保することは困難である。しかも、選択した科目の変更も12年度からはできないので、公民担当の教員は頭を悩ますのではないかと。他方、受験に関係ない生徒達のコース（学科にあたるもの）では、就職・専門学校への推薦進学が大半であり、現代社会2単位で充分である。勉強する教科・科目によってすでに選別を強いている気がする。従来専門系の生徒もセンターを現社で受験できていたのだが、実際合格は無理だとしても、難関大学には出願すらもできなくなるということだ。自分もそうだが、倫理を指導できる専門の教員

が多数いるわけでもなく、各高校は難しい対応を2年後に向けて迫られるだろう。

○言語を用いて世界を説明しようとする哲学を高校教育で教えることは、言語力・思考力の育成という点でも大切だと思う。しかし、例えばセンター試験の問題などは哲学の内容を問うと言うよりも、どれだけ記憶しているかが問われる問題になっており(四択という性質上仕方ないのかもしれないが)、多くの倫理の授業もそれに向けてのものになってしまっているのではないだろうか。私は高校の倫理の授業で大切なのは思想を絶対的な正確さで理解することよりも、その思想家がどのような思考方法で世界を理解しようとしたのかをニュアンスでいいからつかむことだと思っている。(多少正確さが薄れたとしても)高校教育ではまず哲学的思考の楽しさ(言語を用いて世界の様々なことを説明しようとする哲学の言葉遊び的なおもしろさ)を授業で生徒たちに伝え、興味関心を高めた生徒が大学に進学した場合はその思想を正確に理解しようと学ぶ、といったように発展できれば理想的だと感じている。

○前々回の学習指導要領改訂後、公民科必修が現代社会2単位で可となり、多くの高校で授業時間が半減した。2単位では政経分野の内容のみで終わってしまい、倫理分野はほとんど、あるいは全く学習しないままになる。公民科で扱うべき課題は多岐に渡り、増える一方であるのにこれで良いのだろうか。強く疑問を感じる。必修4単位に戻すべき。

○倫理は抽象的概念も多いので、生徒の実態に合わせて行っています。そのため哲学的な分野は外し、青年期や宗教などを中心に進めています。また定期考査では、新聞の投書に対する意見を300字程度で書かせています。

○自分の担当は倫理だが、現在の高校生にとって倫理の内容が難しくなってきたような気がする。難しいというのは理解力の不足というのではなく、哲学や思想についての一般的な興味関心が著しく低下してきたこと、そのため倫理選択者が急速に減ったこと等である。また、本を読んでいる生徒が少なくなった。物語や小説を読む生徒は必ずしも減っていないが、社会の出来事や歴史などについての感心が低下してきている。

○道徳教育や宗教の尊重など、学習指導要領における重点項目を含み中心科目たり得る「倫理」が、カリキュラムにおいては、受験対応のため逆に滅亡の危機に瀕している。現場が等閑視することから、教員採用においても採用なしとなり、例えば来年50歳の私が群馬県公立高校の最後から2番目に採用された倫理教員である。私の考えでは公民科は、社会生活におけるその重要性から、倫理+政治・経済4単位を最低とするのが望ましいと考える。

○公民科の特性から、自分が社会の有為な形成者になるための知識や枠組みを身につけて欲しいと考えて授業をしている。経済の中では金融や消費者教育、政治領域では法教育、が大事になってきていると思うので、教材の工夫が必須だと考えている。

○本校でも来年度から倫理・政治経済を実施する予定であるが、倫理や政治経済の専門の教員がいなかったために、どのように教えていくのかに関してそれなりの戸惑いがある。特に倫理では、私自身倫理の専門ではないので(もちろん私自身の能力の問題もあるが)、カント・ヘーゲル以降の内容の理解が非常に困難である。自分でもよくわかっていない思想家の、単なる解説書の受け売りを、生徒たちに教えることになるの

であれば、大きな倫理的問題を感じる。そもそもカントやヘーゲルの思想に出てくる概念を知っていることが倫理を学ぶことなのか。それとは別に、生徒自身の視点から倫理についてラディカルに考えさせるような教科書はないのだろうか。